

授業実践 【中学校第3学年 社会科】

単元名 日本国憲法第96条を改正すべきか（『人間の尊重と日本国憲法』東京書籍 公民）

1 単元の目標

- 日本国憲法は、国民の人権を十分保障するものになっているかどうかについて考察し、自分の考えをもつ。

2 指導計画（全15時間）

- 問いづくり … 1時間
- 人権と日本国憲法 … 3時間
- 人権と共生社会 … 5時間
- これからの人権保障 … 3時間（本時3／3）
- 討論会（問い：日本国憲法第96条を改正すべきか） … 2時間
- 単元の振り返り … 1時間

3 本時の目標

- 改正臓器移植法の是非について、日本国憲法に基づきながら、自分の考え（解釈）を述べるができる。

4 「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援を取り入れた本時の授業

本時の学習は、改正臓器移植法が、日本国憲法の保障している人権規定を満たすものになっているか、様々な観点から考察させることを通して、自分の考えを述べるができるようになることをねらいとしている。そのため、日本国憲法や改正臓器移植法の内容、日本の脳死に関わる議論の経緯、臓器移植を希望する患者数の推移など、臓器移植をめぐる状況を把握する資料を準備する。

本学級の生徒は、授業中の行動観察等から、文章や資料等を用いた学習活動の際に、細かい部分まで意識して見ることが難しい生徒や、教科書や資料等から情報を読み取ることが難しい生徒、板書をノートに書き写す際に、時間が掛かったり正確に書くことができなかつたりする生徒等が多いと考える。また、それらの生徒の中には、聞くだけでは話の内容を理解することが難しかったり、注意が持続できなかつたりして、個別に配慮を必要とする生徒も在籍している。

これまでの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「環境の工夫」「組立ての工夫」に比べると「個人差への配慮」「説明の工夫」のポイントが低いことが明らかになった。そこで、生徒の実態及びこれまでの自身の授業づくりの傾向を踏まえて、次のような視点に応じた支援を取り入れる。

- 意識して取り入れる視点に応じた支援

【環境の工夫】

- ・注意が持続するように、教室環境を整備して刺激量を調整する。
- ・聞く活動や書く活動、話す活動等の様々な学習活動を1単位時間の中に取り入れる。

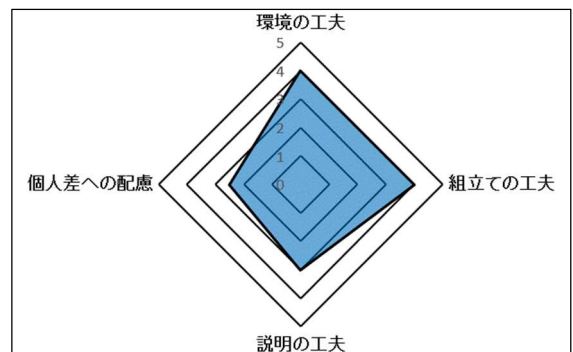


図 これまでの授業づくりの傾向

- ・学習の見通しをもつことができるように、学習の流れを黒板に提示する。







【説明の工夫】



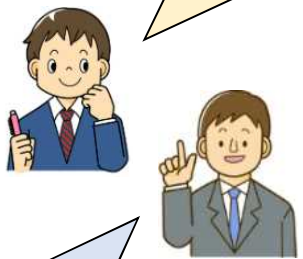





- ・興味をもって学習に取り組むことができるように、ドナーカードの実物を配付する。
- ・電子黒板で図やグラフ等を提示しながら説明する。
- ・グループや学級全体でのディスカッションを行うことで、自分の考えをまとめやすくする。




【個人差への配慮】

- ・電子黒板やタブレットPCを用いて、資料の注目させたい部分を拡大して提示する。
- ・学級全体への説明だけでは理解が難しい生徒のために、個別に言葉掛けを行う。

5 授業の実際 (環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学習活動	「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援	取組の様子
<p>[授業前]</p>	<p>環 注意が持続するように、教室内の刺激量を調整する。</p> <p>環 自主的に行動できるように、掲示物等を意図的に配置する。</p>  <p>授業中に生徒の席から見える掲示物は、「学習の心構え」と「時計」のみにする。</p> <p>その日に応じた見やすい校時表を掲示する。</p> <p>提出物は種類ごとにかごに分けておく。</p>   <p>提出物についての連絡事項は、背面黒板のホワイトボードに、まとめて掲示する。</p> <p>環 授業が始まる3分前にタイマーが鳴るようにセットする。アラームが鳴ったら、授業に向けて道具の準備をできるようにする。</p>	<p>授業に関係のない掲示物は、必要時以外カーテンで覆い隠す。</p> <p>騒音防止のために、椅子の脚には、テニスボールを付ける。</p> 
<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	<p>組 1時間の学習の流れをホワイトボードに示して、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>  <p>組 本時のめあてが明確になるように、生徒を指名して、「今日の学び」を読ませる。</p> <p>学習課題 改正移植法は、日本国憲法第13、14条に違反しないのか</p>	<p>今日は最後にディスカッションをするんだな。自分でしっかり考えよう。</p>  <p>今日は改正臓器移植法が憲法に違反しないかどうかについて学んだな。</p>

<p>2 改正臓器移植法について知る。</p>	<p>説 学習内容への興味をもたせるために、臓器提供意思表示カード(ドナーカード)の実物を全員へ配付する。</p>	<p>生徒は実物のドナーカードを手にして、興味をもって見ていました。実物の提示は、学習意欲を喚起することに効果がありました。</p>
<p>3 脳死判定を含めた、臓器移植をめぐる状況について知る。</p>	<p>説 ドナーカードが改定されてきたことを電子黒板で提示して、改定は、臓器移植法が改正されたからであることを説明する。</p>	
	<p>説 法改正に至った経緯を理解できるように、図やグラフ等を用いた自作資料を電子黒板に提示しながら説明する。</p>	<p>説明のときに、電子黒板で資料を拡大して見ることができたので、とても分かりやすかった。</p>
		
	<p>組 教師の一方的な説明にならないように、必要に応じて生徒に資料を読ませたり、書かせたりしながら学習を進める。</p>	<p>読んだり書いたり、様々な活動を取り入れることで、生徒は注意を持続させて取り組みました。</p>
	<p>◎話を聞くことが苦手な生徒のために、電子黒板やワークシート等を視覚的に提示しながら説明する。</p>	<p>電子黒板やプリントに資料があるから、説明が分かりやすい。</p>
	<p>◎学級全体への説明だけでは理解が難しい生徒のために、個別に言葉掛けを行う。</p>	
		<p>先生がどこを見ればよいのかを教えてくれたから、助かった。</p>
<p>4 憲法と矛盾しないのか考える。 ・グループディスカッションを行う。</p>	<p>組 自分の意見を伝えやすいように、自分の考えとその理由を書く。</p>	
		<p>話すことは苦手だけど、少人数のグループだし、ワークシートに自分の意見をまとめているから、話しやすいな。</p>
	<p>組 活動時間の区切りを明確にできるように、タイマーを利用する。</p>	

<p>・学級全体でディスカッションを行う。</p>	<p>組 授業への参加が促されるように、グループディスカッションを踏まえ、今の自分の立場をネームプレートで黒板に示すように促す。</p>  <p>説 学級全体でのディスカッションが深まるように、黒板に貼った個人の立場を見ながら、教師が意図的に指名して考えを述べさせる。</p> <p>説 生徒が考えを述べる際には、できるだけ根拠を示しながら主張するよう促す。</p>	<p>自分の考えを必ず表現しなければならないので、みんなしっかりと考えていました。</p>  <p>ネームプレートを貼るために動くことで、気分転換になり、授業の続きに集中して取り組みました。</p> <p>憲法を解釈するって難しいけど、楽しかった。憲法に違反しないように法律をつくるのって大変なんだな。</p> 
<p>5 最終的な自分の考えを書く。 6 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>説 ディスカッションの結果を踏まえて、自分の考えをワークシートにまとめさせる。</p> <p>組 臓器移植法について考えたことを基に、次時では、憲法第96条を改正することの是非について考えていくことを伝える。</p>	

6 本時の成果と課題

(1) 成果

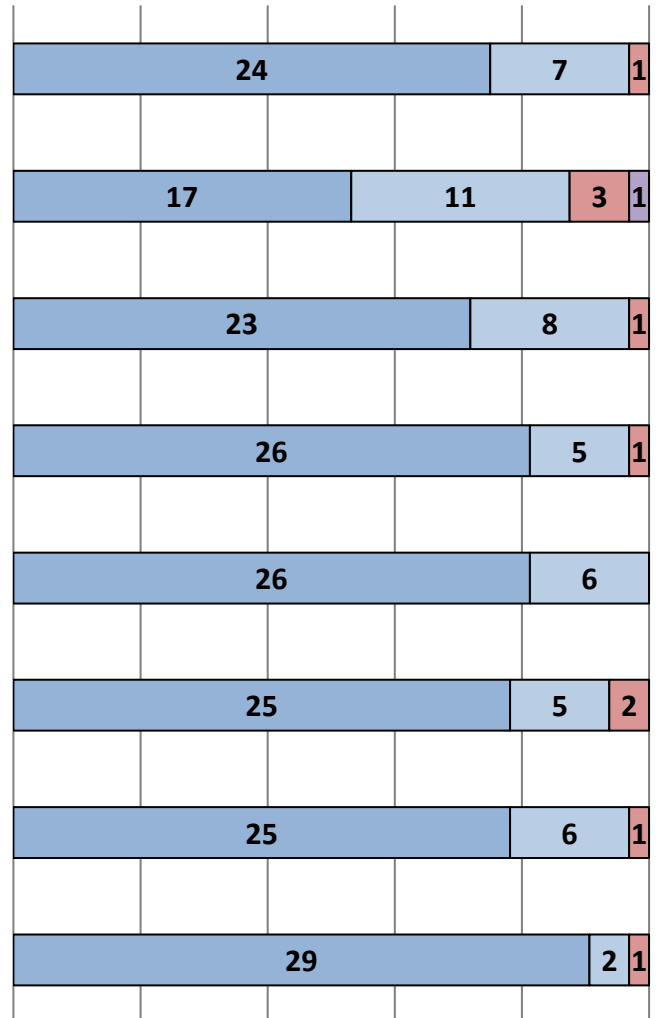
- 教師がチェックシートに記入することで、これまでの授業では意識していない視点に気付くことができた。また、チェックシートの結果を基にして、「説明の工夫」等に配慮した授業づくりを心掛けたことで、個別に配慮の必要な生徒を含めて、最後まで学習活動に取り組む生徒の姿が多く見られた。
- 授業後の生徒アンケートには、「電子黒板で脳死と植物状態の違いを詳しく説明してくれたので分かった」「電子黒板を使った説明の後に、プリントも配付されたのでとてもよかった」という感想があった。口頭による説明と合わせて、視覚的な資料も同時に提示しながら説明したことは、聞くことを苦手とする生徒だけではなく、多くの生徒の学びやすさにつながる支援となったと考える。
- 生徒アンケートには、「自分の考えをもって授業に取り組むことができた」「内容が難しかったけど、班の友達や学級全体で意見を共有することで理解が深まった」といった感想があった。個人で考えを書いてまとめた後に、グループや学級全体で意見を出し合ったことで、ディスカッションが活発になり、深い理解へとつながったと考える。スモールステップで授業を進めていくことは、生徒の参加を促したり、授業内容の理解を深めたりすることが分かった。

(2) 課題

- 本時の授業では、生徒がワークシートに書き終わったことを教師が確認せずに説明を始める場面があった。話を聞くことを苦手とする生徒だけではなく、全ての生徒にとって、活動を明確にすることは、学習内容の理解につながると考えるため、これからの授業で意識していきたい。
- 電子黒板での提示では、教室内の採光や生徒の座席配置等が影響し、画面が見えにくい生徒がいる。そのような生徒がいることを意識して、座席配置の工夫等に取り組む必要がある。

◇生徒アンケートの結果

視点	質問項目
	今日の授業は分かりやすかった。
環	教室前面の掲示物が少なかったり、カーテンで隠してあったりしたので、授業に集中して取り組むことができた。
組	授業の流れをホワイトボードに提示してあったので、見直しをもって学習に取り組むことができた。
組	グループでの話し合いや学級全体での話し合いをしたことで、考えを深めることができた。
説	ワークシートがあったので、自分の立場や理由などの考えがもて、学習の進め方が分かりやすかった。
説	難しい語句を分かりやすい言葉で説明されたので、分かりやすかった。
説	ワークシートに自分の考えを書いてからグループで話し合いをしたので、話し合いがしやすかった。
説	説明の際に電子黒板に資料が提示されていたので、説明の内容を理解しやすかった。




□はい □どちらかというとはい □どちらかというといいえ □いいえ
(人)


◇生徒の感想 (◎…個人差への配慮の対象となった生徒の感想)


- ワークシートがあったので分かりやすかった。
- 難しい言葉の意味の説明があったから分かりやすかった。
- 電子黒板を使った説明は分かりやすい。
- グループでの話し合いは、みんなの意見を聞くことができるので楽しい。
- グラフや図のような資料があったので分かりやすかった。
- 先生が1つ1つ確認しながら進めてくれたのでよかった。
- 電子黒板での説明の後に、資料も配布されたので分かりやすかった。
- 話し合う時間がもっとあれば、考えが更に深まったと思う。
- 電子黒板が友達の頭と重なって見えなかったり、遠くて見えにくかったりした。
- 内容は難しかったけど、意見をグループや学級で共有することで理解が深まった。
- ◎先生が聞き取りやすい速度や声の大きさを話してくれた。
- ◎最初は難しいと思ったけれど、先生の説明で内容が分かった。
- ◎友達が言っている意見が分からないときに、グループの友達や先生が教えてくれた。


◇具体的な支援と取組の様子

環境の工夫	黒板周辺の掲示物を減らしたり、椅子の脚にテニスボールを付けたりする
支援の意図	教室内の刺激量を調整することで、授業に集中できるようにする。
	<p>取組の様子</p> <p>黒板の上部の掲示物を精選し、時計と「学習の心構え」だけを掲示することにした。また、教室の構造上、黒板の右側には給食当番表を掲示する必要があるが、授業中に視覚的な刺激となるため、授業中はカーテンを閉めて隠すようにした。さらに、椅子の脚にはテニスボールを付けて、椅子の音が出にくくなるようにした。</p> <p>このように教室環境の刺激を軽減したことで、これまでの授業より、説明をしている教師や発表をしている生徒に、注意を向ける生徒の姿がいつもより多く見られた。</p>

組立ての工夫	チャイムが鳴る前に授業の準備ができるようにタイマーを用いる
支援の意図	授業前に、学習道具の準備することで、スムーズに授業に取り掛かることができるようにする。
	<p>取組の様子</p> <p>当番の生徒が、授業が始まる3分前にタイマーのアラームが鳴るように設定している。生徒たちは、アラームが鳴ると、学習用具の準備をしながら授業に臨むために気持ちを切り替えている。</p> <p>生徒たちが、このルールに自主的に取り組むことができるようになってから、学級全体の雰囲気落ち着いてきている。また、休み時間と授業との気持ちの切り替えができる生徒が増えてきている。</p> <p>学校全体で取り組んでいる「学習の心構え」の中の1つのルールが定着することにより、「2分前着席をしよう」などの他のルールの定着にもつながっていった。</p>

組立ての工夫	個人で考えたり、全体で考えたりする活動を取り入れる
支援の意図	様々な活動を取り入れることで、授業への注意が持続して、全員が授業に参加しやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>「改正臓器移植法は日本国憲法第13条に違反しないのか」ということについて、自分の考えをノートにまとめた。その後、黒板に示された賛否それぞれの立場の箇所に、自分のネームプレートを貼って立場を明確にした。この活動を通して、それぞれの生徒は自分の考えをもつことができた。これまでの授業では、積極的に挙手や発言をしない生徒も、ネームプレートで自分の考えを示し、授業に参加する姿が見られた。</p> <p>1 単位時間の授業の中で、自分で考える時間があったり、カードを貼るために立って動いたりするなど、活動に変化があることで、教師の説明を聞くだけの授業のときよりも、注意を持続させることができていた。</p>

説明の工夫	電子黒板で図やグラフ等を提示しながら説明をする
支援の意図	電子黒板で図やグラフ等の視覚的な資料等を提示しながら説明することで、学習内容を理解しやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>生徒が臓器移植法や改正臓器移植法といった法律内容について理解することは難しい。そのため、電子黒板を用いて、図やグラフ等の視覚的な資料を提示しながら説明することで、生徒の理解の促進を図った。説明の際には、難しい用語を生徒の理解しやすい言葉に置き換えて説明することにも気を付けた。そうすることで、生徒の多くは、うなずきながら説明を聞いていた。</p> <p>生徒アンケートには、「電子黒板での説明は分かりやすかった」「電子黒板での説明があったから、脳死のことが分かった」などの感想が多くあり、授業内容の理解につなげることができた。</p>

個人差への配慮	口頭による説明の際に、注意を喚起したり視覚的な情報を提示したりしながら説明する
支援の意図	聞くことが苦手な生徒のために、視覚的な資料を提示して、注意を喚起したり、見る箇所を具体的に示しながら説明したりすることで、学習内容を理解しやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>イラストやグラフ等の視覚的な資料を提示して、重要な箇所を拡大したり、資料の見るポイントを具体的に伝えたりしながら説明を行った。生徒はよそ見をしたり、ぼんやりしたりすることなく、電子黒板や教師に注意を向け、顔を上げて話を聞く姿が見られた。</p> <p>生徒アンケートには、「電子黒板を使っでの説明が分かりやすかった」という感想が多くあった。視覚的な資料を提示しながら説明することは、注意を持続させることが苦手な生徒だけではなく、多くの生徒の学びやすさにつながる支援となった。</p>